

- 問1

1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。(2024年 大阪府公立入試 類似)

1. 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した

2. 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった

3. 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった

4. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった
- 問2

日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何といいますか。(2018年 福島県公立入試 類似)

1. ルネサンス

2. 十字軍

3. 宗教改革

4. 産業革命
- 問3

戦国大名が定めた「分国法」に見られる特徴や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。(2024年 岡山県公立入試 類似)

1. 江戸幕府が諸大名を統制し、勝手に城を修理することを禁じようとした

2. 鎌倉幕府が御家人たちの土地争いを公平に解決するために制定した

3. 天皇や公家の行動を厳しく制限し、政治に関与させないようにした

4. 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした
- 問4

ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。(2018年 福島県公立入試 類似)

1. 聖書

2. ローマ教皇の命令

3. 免罪符（贖有状）

4. 教会が定めた儀式
- 問5

室町時代後期から戦国時代にかけて、実力で領地を拡大した戦国大名たちが、幕府の法律に頼らず自らの領国を統治するために独自に定めた法律を何と呼ぶか、正しい名称を選びなさい。(2026年 大阪府公立入試 類似)

1. 武家諸法度

2. 分国法

3. 公事方御定書

4. 御成敗式目
- 問6

室町時代の後半から戦国時代にかけて、各地で戦国大名が勢力を伸ばした背景として最も適切な説明はどれですか。(2024年 秋田県公立入試 類似)

1. 幕府が各地の有力な農民に領地を分け与え、新しい支配層として育成したため

2. 朝廷の権威を重んじる「尊王攘夷」の考えが広まり、幕府を打倒する勢力が現れたため

3. 特定の家柄のみが政治を独占する「門閥政治」が行われ、それに反発した新興勢力が台頭したため

4. 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため
- 問7

戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。(2020年 佐賀県公立入試 類似)

1. 目目安箱

2. 喧嘩両成敗

3. 連座（縁座）

4. 奉公と恩賞
- 問8

1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。(2019年 大分県公立入試 類似)

1. ルネサンス

2. 宗教改革

3. 十字軍

4. 産業革命
- 問9

戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。(2025年 京都府公立入試 類似)

1. 寄親

2. キリシタン大名

3. 守護大名

4. 戦国大名
- 問10

戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。(2024年 奈良県公立入試 類似)

1. 室町幕府の将軍から授かった権限を、領民に広く知らしめること

2. 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること

3. すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること

4. 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること
- 問11

16世紀半ばに種子島へ伝来した鉄砲は、その後の日本の戦い方を大きく変えることとなりました。鉄砲の普及が戦国時代の社会や軍事面に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。(2016年 千葉県公立入試 類似)

1. 騎馬武者の一騎打ちが重視されるようになり、個人の武勇がより重んじられた

2. 武器の威力が向上したため、平地での戦闘を避けて山城にこもる戦術が一般的になった

3. 鉄砲の製造が困難であったため、京都周辺の限られた大名だけが勢力を伸ばした

4. 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した
- 問12

15世紀後半の応仁の乱以降、室町幕府の権威が低下するなかで、各地の戦国大名が自らの領国内を独自に統治・管理するために制定した法律を何というか、正しい名称を選びなさい。(2023年 福井県公立入試 類似)

1. 公事方御定書

2. 分国法

3. 御成敗式目

4. 武家諸法度
- 問13

鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。(2014年 沖縄県公立入試 類似)

1. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。

2. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。

3. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。

4. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。
- 問14

戦国時代、各地の戦国大名は自らの実力で領国を統治するために独自の法令を制定しました。これらの法令において、「家臣同士が勝手に婚姻を結ぶことを禁止する」や「領国内での勝手な築城を禁止する」といった項目が盛り込まれた主な目的として、最も適切なものはどれですか。(2024年 東京都公立入試 類似)

1. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣接する他の領国へ拡大するため

2. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目の内容を、全国の農民に分かりやすく広めるため

3. 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため

4. 江戸幕府が定めた武家諸法度を遵守し、将軍への忠誠心を示すため

答え合わせ・解説

問1	答え 4 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった	鉄砲の伝来と普及は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬武者中心の戦いから、鉄砲を装備した足軽による組織的な集団戦法へと移行しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げ、厚い壁を持つ堅固な城郭が築かれるようになるなど、建築技術にも大きな影響を与えました。
問2	答え 3 宗教改革	16世紀のヨーロッパでは、カトリック教会が免許符（贖宥状）を販売するなど腐敗が進んでいました。これに対しドイツのルターは「九十五ヶ条の論題」を発表して教会を批判し、信仰のよりどころを教会ではなく聖書に求めるべきだと説きました。この動きはヨーロッパ全土に広がり、プロテスタントと呼ばれる新しい派閥が生まれるきっかけとなりました。
問3	答え 4 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした	戦国大名は領国の軍事力を維持するため、家臣同士が私的な理由で喧嘩や抗争をすることを強く禁じました。代表的な規定に、理由を問わず争った両者を処罰する「喧嘩両成敗」があります。これにより、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を安定させる狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、禁中並公家諸法度（江戸時代）の説明です。
問4	答え 1 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問5	答え 2 分国法	戦国大名は、自らの力で手に入れた領地を安定して支配（領国支配）するために、家臣の行動を制限したり、領民の争いを裁いたりするための独自のルールを定めました。これは「家法」とも呼ばれます。鎌倉時代の「御成敗式目」や、後の江戸時代の「武家諸法度」と混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 4 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため	14世紀から15世紀にかけての年表をたどると、幕府の統制力が弱まると同時に、各地で実力主義による勢力争いが激化していることがわかります。この「下剋上」の動きによって、従来の守護などの家柄に関係なく、軍事力や政治力のある者が戦国大名として自立していきました。
問7	答え 2 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの分国法に盛り込まれました。
問8	答え 2 宗教改革	16世紀半ば、カトリック教会の腐敗を批判したルターは、聖書の教えこそが信仰の拠り所であると主張しました。この動きは「宗教改革」と呼ばれ、後にプロテスタントと呼ばれる新しい派閥を生むとともに、カトリック側による海外布教（イエズス会の結成など）を促すきっかけとなり、日本へのキリスト教伝来にも大きな影響を与えました。
問9	答え 2 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問10	答え 4 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること	戦国大名は、家臣が勝手に城を築くことを制限して反乱を防止したり、年貢の徴収を徹底して軍事費を確保したりすることで、領国の支配を確実なものにしようとしていました。分国法は、戦国時代を勝ち抜くための「富国強兵」を目指した統治の仕組みです。幕府の権威が及ばなくなった時代背景を反映しています。
問11	答え 4 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した	鉄砲はそれまでの弓や刀に比べ、習得が比較的容易で高い殺傷能力を持っていたため、大量の足軽に装備させて組織的に運用する集団戦法を生み出しました。これにより、一騎打ちを中心とした従来の戦い方は衰退し、織田信長が長篠の戦いで活用したように、大規模な軍事力を持つ戦国大名が有利になる社会構造へと変化しました。
問12	答え 2 分国法	室町幕府の統治能力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名が領国を安定して支配するために独自に定めた法典です。幕府の法（幕府法）や荘園領主の法ではなく、大名自身の権力に基づいて定められた点に特徴があります。
問13	答え 4 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。
問14	答え 3 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため	戦国大名は、室町幕府の権威が衰退する中で、自らの実力で領地を治める必要がありました。分国法は、家臣たちが勝手に同盟を組んだり（婚姻の制限）、独自の軍事拠点を持ったり（築城の制限）することを防ぎ、大名を中心とした一元的な統治体制を築くために制定されました。これにより、領国内の紛争を裁定し、団結力を高める狙いがありました。